

☆教育目標	高い知性 豊かな心 健やかな体
☆田上の12か年教育	志をもって 意欲的に学び 自律と思いやりの心をもつ たくましい子ども ~家庭で育ち 学校で学び 社会へ 羽ばたく~



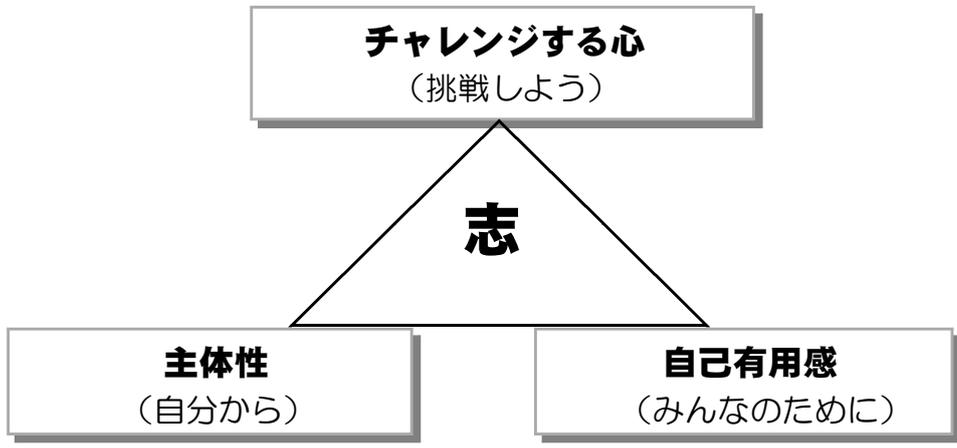
<田上中のキャッチフレーズ> 地域とともに輝く ~たくましく やさしく~  
 「高い知性」「豊かな心」「健やかな体」を身に付け、一人一人が輝く田上中学校を創っていきこう！そして生徒のがんばる姿で地域も輝く  
 …そんな田上中学校をみんなで目指します！  
 そのために



☆生徒も職員も輝く “チーム田上中” を目指します！

- ☆1 **ビジョン** の共有  
 「生徒にどういう力を育て、どのような姿にしたいのか」を明確にし、それを全職員と保護者、地域で共有する。
- ☆2 **職員同士・職員と生徒・生徒同士の協働**  
 協働とは協力を越えたもの。チームがよくなるよう話し合い、自分のよさや持ち味を生かして行動する。
- ☆3 **シンプルで分かりやすい運営**  
 生徒、保護者、地域住民、職員が学校の考えや取組を理解し、その中で自分の方向性が見える。一人一人のウェルビーイング（幸福感）を高めていく。

☆1 「ビジョンの共有」について  
 <田上中で育てたい力> 主体性・自己有用感・チャレンジ精神  
 “志” のトライアングルを響かせよう！



- <知育> 各教科 道徳科 (人権教育含む) 職員研修
- |   |   |                                      |
|---|---|--------------------------------------|
| (目指す姿) <u>主体的に考え、</u><br>(主体性)<br>【主体的】 | <u>思いや考えを工夫して表現し、</u><br>(自己有用感)<br>【対話的】 | <u>学びをつなぐ</u><br>(チャレンジ精神)<br>【深い学び】 |
| ○自分の考えをもつ                               | ○分かりやすく伝える                                | ○各教科の学びをつなぐ                          |
| ○ <b>内容や方法を選択する</b>                     | ○ <b>新たな考えを構築する</b>                       | 【教科横断的な学び】                           |
| ○ <b>個別最適な学び</b>                        | 【協働的な学び】                                  | ○授業の学びを家庭学習につなぐ                      |
| ○自分の考えを見直す                              |   | ○学びを生活や社会につなぐ                        |
- ※ 太字は昨年度を受け、重点を図る項目

(達成に向けた手立て)

- 全教科における単元シート (単元の見通し、「学びをつなぐ」視点を入れて)
- 全教科におけるパフォーマンス課題 (「内容や方法の選択」の視点を入れて)
- 単元における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の位置付け
- つなぐ時間の活用と効果的な家庭学習
- ICTの活用 (「表現の工夫」や「方法の選択」の視点を入れて)

<徳育> 特別活動 総合的な学習の時間 キャリア教育

- (目指す姿) よりよいものを目指して主体的に考え、話し合い、協力して行動する  
(主体性) (自己有用感) (チャレンジ精神)
- 学校生活や地域社会に目を向け、問題意識をもつ
  - 自分で決めて行動する
  - 自分の行動を振り返る
  - 解決に向けて話し合う
  - 互いのがんばりを共有する
  - 多様な他者に働きかける
  - 地域への発信と地域貢献活動を行う

(達成に向けた手立て)

- 生徒と職員で話し合って創る行事、活動 ~教師は黒子 生徒を前面に~
- 担当生徒が企画し、全校に呼びかけてボランティアを募る活動
- コラボによる運営 (他の分掌 (委員会)、地域とのコラボ)

<体育> 健康教育 食育 情報モラル教育

- (目指す姿) 自分を見つめ、解決に向けて話し合い、よりよく行動する  
(主体性) (自己有用感) (チャレンジ精神)
- 自分の健康や生活習慣に課題をもつ
  - 自分の行動を振り返る
  - 仲間や家族と話し合う
  - 自分から実行する

(達成に向けた手立て)

- 一人一人に課題 (これでいいのか、どうすればよりよい生活になるか) をもたせる働きかけ
- ・生徒同士で考え、話し合う場の設定 (県教委「SNS教育プログラム」の活用含む)

## ☆2 職員同士・職員と生徒・生徒同士の「協働」について

- 複数担任制の活用
- 学年部会、教科部会の充実
- 生徒指導における組織的な対応といじめ見逃しゼロの取組の強化
- 学級会、生徒会の委員会、行事の実行委員会における生徒との対話の推進 (共に創る)
- 各分掌組織の十分な活用

## ☆3 「シンプルで分かりやすい」運営について

- たよりや文書は分かりやすく、簡潔に
- 選択と集中
  - ・教科の学習内容…重点化を図る (教科部会の充実)
  - ・定期テスト…今年度から年間3回の実施 加えて単元テストや小テスト、パフォーマンス課題 (テスト) の実施
  - ・学校行事等の見直し…保護者や地域の意向も踏まえ、進めていく。
  - ・部活動…休日の地域移行への試行を段階的に行う。
    - ・地域移行検討委員会 (町教委主導) を立ち上げ
  - ・透明性のある運営  
国や県から何が求められているか、今、学校で何が起きているか、何が問題なのかを理解し、「方向性が見える、その中で自分が何をすればよいか分かる」学校運営



**「チーム田上中」**

**生徒、教職員、保護者や地域がチームになろう！**